

目次

口絵

まえがき

序章 温泉と温泉地の意義

一 温泉の定義と分類……………1

温泉の定義 温泉の泉質

二 温泉の利用……………5

温泉発見伝説 江戸時代の温泉医療 温泉の効用 温泉の多目的利用

三 温泉地の意義……………11

気候療養地 温泉地の環境

第一部 日本温泉地の発達史

第一章 古代から近世末までの温泉地……………17

一 古代の温泉地……………17

禊と温泉 聖徳太子と天皇の行幸 温泉と文学 温泉集落の成立

二	中世の温泉地	22
	西国の温泉地	
	東国の温泉地	
三	近世の温泉地	26
	温泉集落の構造	
	計画的温泉集落	
	温泉の所有形態と利用	
	大名の湯治	
	庶民の湯治	
	入湯客数と入湯圏	
	温泉地案内	
第二章	明治期から昭和初期までの温泉地	47
一	明治・大正期の温泉地	47
	新温泉開発と内湯化	
	新興温泉地の形成	
	入湯客の特性	
二	昭和初期の温泉地	62
	交通網の発達と観光地化	
	全国温泉地の地域的展開	
	温泉保護と日本温泉協会の活動	
第三章	第二次世界大戦後の温泉地	70
一	高度経済成長期―昭和四〇年代末まで	70
	観光温泉地の高度化	
	内湯化問題	
	広域観光ルートの形成	
	スキー場開発と温泉地	
	国民保養温泉地	
二	低成長期―昭和五〇年代以後	87
	温泉集落の景観保全	
	保養温泉地の多様化	
	日帰り温泉地の展開	

第二部 日本温泉地の現状とあり方

第四章 温泉地の現状分析

一 温泉地の分布と類型……………99

温泉地の分布 温泉地の類型

二 観光産業の実態……………106

観光産業構成 旅館業の実態

三 入湯客の特性……………112

湯治客と観光客 主要観光温泉地の宿泊客

第五章 温泉観光の実態と志向

一 温泉観光の動向……………127

余暇と観光レクリエーション 温泉観光の地位

二 温泉観光の実態と志向……………129

温泉展でのアンケート調査 温泉観光の実態 温泉観光の志向

第六章 温泉地のあり方

一 温泉医療と温泉行政……………140

温泉医療 温泉行政

二 環境整備と温泉地計画……………159

温泉地の環境整備 温泉地計画

第七章 温泉地活性化の事例……………175

一 山間小温泉地の活性化……………175

熊本県黒川温泉 大分県長湯温泉

二 観光温泉地の活性化……………184

宮城県鳴子温泉郷 群馬県伊香保温泉 鳥取県三朝温泉

三 新温泉開発による地域活性化……………200

岩手県湯田町 長野県北御牧村 奈良県十津川村

終章 よりよい温泉地域形成のために……………220

参考文献

付録

温泉地名索引

*本書の口絵および本文中の写真については、提供者名のないものは、筆者の撮影による。